

## 令和6年度第1回江別市スポーツ推進審議会開催結果

### 1 開催日時・場所

令和6年9月2日（月）10時30分～11時20分

江別市教育庁舎大会議室

### 2 出席者

・スポーツ推進審議会委員：9名

古川孝行会長、花井篤子副会長、小林照美委員、水崎理委員、柴田宏樹委員、  
安田敏昭委員、竹内由紀子委員、石崎朋子委員、小川泰雅委員

（欠席：奥村翔委員、五十嵐拓也委員）

・教育委員会事務局

佐藤教育部長、新山教育部次長、松井スポーツ課長、今井スポーツ係長、  
茂木スポーツ課主査

### 3 開催結果

#### (1) 委嘱状交付

佐藤教育部長から新任の水崎委員へ委嘱状を交付した。

#### (2) 開会

委員の過半数の出席を確認し、スポーツ課長が開会を宣言。

#### (3) あいさつ

古川会長、佐藤教育部長からあいさつ

#### (4) 委員・職員紹介

#### (5) 報告事項1 令和5年度スポーツ関係事業実施報告について

・スポーツ係長から、資料に基づき報告した。

#### ○事務局（スポーツ係長）

はじめに、教育委員会が行った事業についてご報告する。

1ページをお開き願う。

まず、学校体育施設開放事業であるが、社会人体育団体学校開放事業は、学校運営に

支障のない範囲で、体育館及びグラウンドを市民のスポーツ団体の活動場所として提供する事業で、令和5年度は、25小中学校を開放し、利用者数は延べ13万915人であった。

次に、体育施設開放事業（学校体育館土曜開放）は、10の小学校の体育館及びグラウンドについて、土曜日の午前を地域の児童生徒のスポーツ活動場所として提供するもので、利用者数は延べ3,025人であった。

両事業とも、新型コロナウイルス感染症が第5類感染症へ移行したことから、利用者数が増加している。

また、体育施設開放事業（学校プール開放）は、夏休み期間中、15校の小学校プールを開放し、子ども達に利用してもらう事業で、利用者数は8,190人となっている。

次に、スポーツ普及奨励事業の、青少年スポーツ賞顕彰（けんしょう）であるが、スポーツ賞は、高校生以下を対象にして、全国大会で3位以上を基準としており、6個人、3団体を表彰している。スポーツ奨励賞は高校生以下で全道大会1位を基準としており、21個人、11団体を表彰している。教育委員会賞は、小中学生で全道大会2位又は3位を基準としており、14個人、10団体を表彰している。

次に、スポーツ大会出場奨励金交付は、予選を経て全道大会規模以上の大会に出場する市民に対し、負担の軽減を図る目的で奨励金を支給するもので、国際大会は2個人、全国大会は68個人と13団体に、全道大会は57個人と6団体に、それぞれ奨励金を支給している。こちらの両事業も、コロナ禍前に近い水準まで増加している。

次に、スポーツ振興に関する事業であるが、屋外体育施設管理運営事業は、第二中学校に特設するスケートリンクの管理運営を江別市スポーツ振興財団に委託したものである。

スポーツ大会等振興補助事業は、江別市スポーツ振興財団が実施するスポーツ大会や健康体力づくり指導相談などの事業に係る補助金で、3,978万円を交付している。

次に、体育団体補助金であるが、江別市スポーツ協会と江別市スポーツ少年団が実施する事業に対する補助金である。

次に、地域スポーツ活動活性化促進事業であるが、学校レクリエーションや自治会などにおいて、スポーツ推進委員の指導の下、軽スポーツを行い、この普及を目的とする事業で、4件、161名を対象に実施している。

2ページをご覧ください。

トップアスリート交流推進事業は、市民がトップアスリートと交流する機会を提供する事業で、合宿に訪れる団体に対し、空港から宿泊地・練習会場への送迎サービスの提供、道立野幌総合運動公園などの会場使用料の補助、江別市特産品の提供といった支援を行ったものである。令和5年度は、アジア競技大会の直前合宿として競泳日本代表チームが市内で合宿を行い、交流会や練習の一般公開を通じて市民との交流が実現した。

次に、スポーツ施設改修整備事業の体育施設整備更新事業であるが、4つの体育館、2つの屋外体育施設に係る修繕工事費と備品購入費である。令和5年度は、青年センターのプール棟天井改修工事やあけぼのパークゴルフ場のスタート台入替などを行った。

次に、市民体育館改修整備事業では、市民体育館の給水設備改修工事と柔剣道室の床改修工事を行った。

次に、高校総体北海道大会開催事業では、令和5年度全国高等学校総合体育大会における江別市開催競技であるホッケー、競泳競技の準備や大会運営を行った。4年ぶりの感染症による制限を受けない大会として、選手・関係者・観客など約2万人が来場した。

次に、特別支援学校フットサル大会開催支援事業では、道内及び台湾の特別支援学校が参加したフットサル大会の開催支援を行うもので、JR野幌駅から会場である道立野幌総合運動公園まで選手を輸送するシャトルバスを提供するなどの支援を行った。

最後に、体育施設の指定管理事業であるが、市民体育館など屋内4体育施設は一般財団法人江別市スポーツ振興財団が、あけぼのパークゴルフ場及び森林キャンプ場についてはエコ・グリーン事業協同組合が、それぞれ指定管理者として管理運営を行ったもので、指定管理料は合わせて2億3,804万4千円である。

次の3ページから7ページにかけては、一般財団法人江別市スポーツ振興財団が行った事業である。ただいまご説明した指定管理に係る事業や、スポーツ大会等振興補助金に係る事業、自主事業などを行っているもので、詳細のご説明は割愛するが、事業内容は記載のとおりである。各種スポーツ教室やスポーツ大会を開催したほか、健康体力づくり指導相談事業、スポーツ指導者養成事業、体育施設管理運営事業を実施している。

(質疑等)

○花井副会長

参考までに教えてほしいが、江別市立の小中学校は全部で何校あるのか。

○事務局（スポーツ係長）

小中学校合わせて25校である。

○花井副会長

社会人体育団体学校開放事業は、全ての市立小中学校で開放されているというところで理解した。

○古川会長

社会人体育団体学校開放事業の利用者数は、13万人以上とすごい数であるが、決算

額21万4千円の内訳を教えてください。

○事務局（スポーツ係長）

主に開放団体に貸し出す鍵の作成費用等に係る消耗品費や、バドミントンの支柱などの備品の購入費である。

○古川会長

利用人数に対して、決算額が少ない理由は理解した。利用団体は学校を利用するにあたり、自ら用具を持ち込むほか、学校の用具を利用することもあると思うが、用具が古くなって修繕や交換が必要となった場合、スポーツ課で対応してもらえるのか。

○事務局（スポーツ係長）

学校の用具であれば学校が対応することになるが、学校開放用の用具であれば、スポーツ課で修繕や交換を行っている。

**(6) 報告事項2 令和5年度スポーツ施設利用状況について**

- ・スポーツ係長から、資料に基づき報告した。

○事務局（スポーツ係長）

8ページをお開き願う。

令和5年度の利用者数であるが、屋内施設では、4体育館合計で40万8,271人と前年と比較して4万5,469人増加している。

屋外施設は、都市公園内の少年野球場やテニスコートなどの利用者数であるが、合わせて3万8,223人で、前年と比較して、164人増加している。

森林キャンプ場は、5,703人となり、前年と比較して4,252人減少している。これは、8月にキャンプ場付近でクマの目撃情報があったことから、利用者の安全を確保するため、10月のシーズン終了まで施設を閉鎖したことによるものである。

9ページをご覧ください。

あけぼのパークゴルフ場であるが、利用者数は3万8,889人で、前年と比較して411人減少している。この利用者数は券売機による販売枚数を基に集計しており、延べ人数では減少しているが、実人数では増加していることを指定管理者から確認している。

このほか、特設スケートリンクと学校体育施設開放事業の実績は記載のとおりである。

最後に、当市のスポーツ施設利用者の総合計は、63万6,895人となり、前年度から約11%の増となっている。

(質疑等)

○古川会長

前年比であると約11%の増という報告があったが、令和元年度と比較すると全体的に減少しており、特に屋外施設はかなり減少しているように見える。5年経過すると、もちろんコロナの影響もあると思うが、人の構成も変わってくる。一概には言えないが、そういった要因もあるのではないかと思う。

### (7) 報告事項3 令和5年度江別市スポーツ推進計画(第6期)推進状況について

・スポーツ係長から、資料に基づき報告した。

○事務局(スポーツ係長)

資料の10ページ、11ページをお開き願う。

第6期江別市スポーツ推進計画は、第6次江別市総合計画の個別計画と位置づけ、計画期間を令和元年度から令和5年度までの5年間とし、誰もが健康で心豊かな生活を送ることができる生涯スポーツの実現を目指すために策定している。

本計画の推進には、各施策の実施状況や達成状況、効果・課題について、PDCAサイクルの考え方に基づいて、点検・評価を行い計画に反映していくこととしているので、令和5年度における「成果指標」の結果と今後の推進の方向性について、ご報告する。報告する内容については、太枠で囲まれた部分である。

資料の10ページをご覧ください。

「基本目標Ⅰ：生涯スポーツの推進」であるが、令和5年度は、生涯各期におけるスポーツ活動の機会提供と充実として、各種スポーツ教室を開催し、各年齢層別のメニューを提供した。

各領域におけるスポーツ活動の充実と関係機関・団体との連携としては、学校開放事業など、スポーツ活動機会の提供を行った。

スポーツ教室の受講者数は、新型コロナウイルス感染症の影響を受けつつも、前年と比較して増加しており、回復傾向が見受けられる。

学校開放事業は、新型コロナウイルス感染症が第5類感染症へ移行したこともあり、前年と比較して約12%利用人数が増加した。

週1回以上スポーツ活動に親しむ市民割合は現状値に比べて42.7%となっており、昨年をわずかに下回る結果となった。

年代別に見ると、65歳以上はスポーツ実施率が50%を超えているが、20～30代は仕事や子育ての影響かスポーツ実施率が低く、今後の課題と言える。

今後の方向性について、スポーツ活動に親しむ市民割合の上昇を目指し、今後も、より多くの市民がスポーツ活動に親しむことができるよう、市民ニーズを的確に把握し、

関係機関と連携して魅力ある事業の提供に努めていきたい。

資料の11ページをご覧ください。

「基本目標Ⅱ：地域スポーツ活動の推進」であるが、令和5年度は、地域スポーツ活動の活性化のためスポーツ協会やスポーツ少年団の活動に対する支援のほか、軽スポーツの指導・普及を行う軽スポーツの出前事業を実施し、気軽にスポーツに親しめる機会を提供した。

各スポーツ団体やスポーツ少年団は少子高齢化の影響がある中、会員数は減少傾向が見られるが、多くの団体が全国・全道大会に出場するなど活発に活動している。

7～8月には、全国高等学校総合体育大会が北海道で36年ぶりに開催され、江別市ではホッケーと競泳の2競技を実施した。令和元年以来、4年ぶりの新型コロナウイルス感染症による制限を受けない大会として、約2万人の選手・関係者・観客が来場した。

9月には、競泳日本代表チームによるアジア大会直前合宿が江別市内で行われ、交流会や練習の一般公開を通じて市民と交流した。

スポーツ機会が充足していると思う市民割合は70.7%となっており、前年度を上回る結果となった。

今後の方向性であるが、各団体の活性化のため、スポーツ協会やスポーツ少年団、総合型地域スポーツクラブ等に対し、指導者育成等の支援や情報提供等の取組を継続して行い、スポーツによる「健康都市えべつ」の実現を図っていきたい。

次に「基本目標Ⅲ：スポーツ環境の整備・充実」であるが、令和5年度は、市民体育館の給水設備や柔剣道室の床などの改修工事を行い、スポーツ施設の環境整備に努めた。

7月には、あけぼのパークゴルフ場Dコース（9ホール）をオープンし、全36ホールとなった。

市内の屋内体育施設は建築から40年以上経過したものが多くことから、老朽化対策として、安全に配慮した改修整備を進めており、スポーツ施設整備の満足度は67.6%と上昇している。

今後の方向性であるが、令和6年度も市内体育施設の改修整備を行い、安全で快適に利用できるスポーツ環境づくりを進めるとともに、指定管理者と連携して利用しやすい施設運営と適切な管理を行っていきたい。

（質疑等）

○花井副会長

「スポーツ機会が充足していると思う市民割合」と「スポーツ施設整備の満足度」が過去5年間で1番高い数値が示されている。その一方で、「週1回以上スポーツ活動に親しむ市民割合」が低めとなっている。市民の満足度は高いが、行動に反映されていない

ことについて、事務局のコメントがあれば教えてほしい。

○事務局（スポーツ係長）

アンケート結果を分析したところ、定期的にスポーツを行う人と全く行わない人の二極化が進んでいると考えている。スポーツに接する機会が少ない人に対して、少しでも興味を持ってもらえるような魅力ある事業を展開していくことが今後の課題である。

○花井副会長

定期的にスポーツをしていない人も一定数いるということで、どのように行動につなげていくのか、何かしらのしかけが必要だと個人的にも思う。

○古川会長

スポーツといっても、従来にある競技スポーツだけがスポーツというわけでもなく、オリンピックから e スポーツまで広くスポーツだと言われている。楽しんで身体を動かすということが健康につながるのであれば、そういうものも含めてスポーツなので、なかなか難しい問題だと思う。

また、子どもの数も少なくなってきているので、前年度の増加率や何%とかこれだけで今後を考えていくのも難しいかもしれない。どれだけの人たちがどう変わったのかといったような見方も必要かもしれない。

**(8) 報告事項4 令和6年度スポーツ関係事業計画について**

- ・スポーツ係長から、資料に基づき報告した。

○事務局（スポーツ係長）

資料の12ページをご覧ください。

まず、今年度において、教育委員会が行う事業であるが、ここでは前年度から内容変更のあった事業を主に説明させていただく。

表の上段、体育施設開放事業（学校プール開放事業）は、夏休み期間中、小学校プールを児童・生徒に開放する事業であるが、今年度から、より一層の安全性の確保を図るため、市直営から警備業者に委託する方式に変更している。

表の中段、トップアスリート交流推進事業では、9月22日に道立野幌総合運動公園で開催予定の「水泳の日2024・北海道」の開催支援に係る費用等を計上しており、このイベントの詳細は後ほど説明させていただく。

表の下段、市民体育館改修整備事業では、市民体育館管理棟等外壁改修工事を現在行っているところである。

1つ下の東野幌体育館改修整備事業では、体育室の床改修工事を行う予定である。

13ページから16ページにかけては、江別市スポーツ振興財団が行う事業であり、指定管理事業、受託事業、補助事業について、それぞれ記載しているが、説明は割愛させていただく。

(質疑等)

○小林委員

学校プール開放事業について、北広島市の市営プールで事故があったばかりであるが、これまでに聞いていた話だと、夏場のプールは混みようによっては泳ぐというよりは、ただ水に浸かるだけということもよく聞いている。そのような中で監視体制は、直営から委託へ変わったことで違いはあるのか。

○事務局（スポーツ係長）

昨年まではスポーツ課で監視員を募集していたが、監視員のなり手が不足しており、かつ監視員の高齢化という課題もあった。今回、民間の警備業者に委託したことで、監視員の募集も委託業者が行い、監視員の平均年齢はかなり若返っている。以前は、保護者から監視員が少し頼りないといった意見もあったが、ある程度改善されたと考えており、今年度に関してはそういった苦情もなかった。

○小林委員

各プールの監視員に最低1人でも水泳の資格を持った方はいるのか。資格のない方が2～4人いても、いざというときの対応ができないと意味がないと思うので確認したい。

○事務局（スポーツ係長）

資格の有無はプール監視員の募集要件に含めてはいないが、これまでにプール監視員の経験がある者を各プールに最低1名は配置するような対応は行っている。また、委託業者は警備を専門とする業者なので、プール開放前の研修はこれまで以上に強化している。監視員に資格の有無を求めると人数が集まらない可能性もあり、そこまでは難しいと考えている。

○古川会長

事故があれば全ての意味がなくなってしまうので、委託したから大丈夫というわけにはならず、委託側の管理が不十分であれば、事故が起きうる可能性はあるので、その辺は少し心配なところである。

○小林委員

青年センターのプール監視員は2～3人体制で、勤務時間を1時間以上にはせず、4



5～50分で交代している。また、座って見ているというのではなく、様子を見回りながら監視しないと目が届かないということもある。

○古川会長

プールに入る人数が増えたら、監視員を増やすなど臨機応変な対応が必要と考える。経費がかかるから監視員の人数が足りなくてもこれでやるということであれば、命にかかわる問題なので、その辺はもう少し慎重に進めていただきたい。

○事務局（スポーツ課長）

今年度のプール開放事業については、事故もなく無事終了したところであるが、先週の北広島市のプール事故があったことから、子どもの命を第一に、監視体制や研修などを含めた様々な課題を委託業者と協力しながら解決していきたい。

(9) その他

○事務局（スポーツ課主査）

事務局から2点連絡事項がある。

1点目、「水泳の日2024・北海道」の開催について、令和6年9月22日（日）に道立野幌総合運動公園水泳プールにて水泳の全国規模のイベントである「水泳の日2024・北海道」が開催される。本イベントは公益財団法人日本水泳連盟等が主催のイベントとなっており、オリンピックや日本代表選手によるエキシビジョンや水泳体験教室等が実施される。イベントの観覧については誰でも参加することが可能であり、市教育委員会ではイベントの広報活動のほか全国から来場される参加者に対し、市のPRを目的としてブースにて特産品販売をするなど対応を予定している。

○事務局（スポーツ係長）

2点目、今年度の江別市スポーツ推進審議会について、今年度は全部で2回の開催を予定しており、次回、第2回目の審議会は2月頃を予定している。時期が来たら、改めてご案内させていただく。

(10) 閉会

○古川会長

以上で、令和6年度第1回スポーツ推進審議会を閉会する。

(11時20分終了)